



は が ほど くらい

文法を楽しく!!

ぶん ぼう たの

「～ている・
～ていた」(1)

今回からしばらく、皆さんがすでに知っていることを、もう少し深く、応用的な部分を含めて考えていきたいと思います。今回と次回は「～ている」と「～ていた」について考えます。

「子供が庭で遊んでいる」を過去にすると、「子供が庭で遊んでいた」になりますが、この「～ていた」はどんな状況で使われるのでしょうか。同じ過去でも「新婚当時はよく夫婦喧嘩をした」と「新婚当時はよく夫婦喧嘩をしていた」はどう違うのでしょうか。

「～ていた」に入る前に、まず「～ている」についての復習をしておきます。*1

1. 「～ている」について

以下の会話には「～ている」(下線部分)が出てきますが、話し手はどういう意味で「～ている」を使っているかを考えてください。

(1) <皇居 (the Imperial Palace) の近くで>

- A: たくさんの方がジョギングをしていますね。①
B: ええ、私もときどきします。
A: Cさんは。
C: ぼくも週3回は走っていますよ。②

(2) <ドライブの途中で>

- A: あ、ガードレールにぶつかりますよ。
B: あっ。 <ガチャーン!!>
.....
<Aさんが車の外に出る。>
A: あっ、バンパーが.....
B: 壊れましたか。
A: ええ、壊れています。ボンネットもかなりへこんでいますね。

(1)①で話し手Aは、皇居の周り(皇居の周りはジョギングコースとして有名です。)で走っている人達を見て、その今の動きを「～ている」で表しています。②の「走っています」は習慣を表します。「走ります」(Bの「ときどきします」も同じ)も「走っています」も習慣を表しますが、「走ります」が単なる現在の習慣を表すのに対し、「走っています」は、「以前始まった習慣が今も変わらず続いている」というようにやや具体的な説明になります。*2

(2)では、Bが運転している車がガードレールにぶつかって、バンパーやボンネットが壊れたようです。それを見たAが、その状態(壊れた結果の状態)を「～ている」を用いてBに伝えていきます。

以上まとめると、(1)の「～ている」は動作の進行・継続を、(2)は結果の状態を表します。

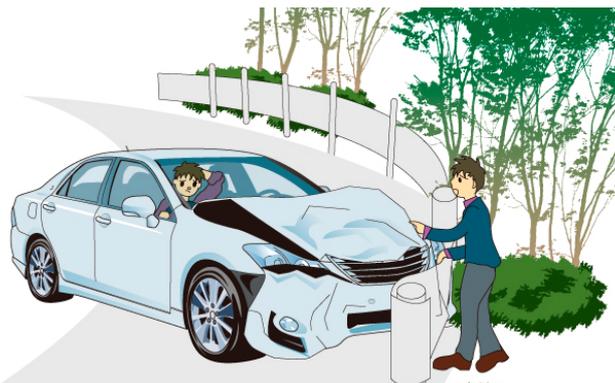
(3) <母手作りのケーキを前に>

- 母: さあ、いただきますよ。
<ピンポン (チャイムが鳴る)>
母: あ、誰か来たみたい。ちょっと待っててね。
まだ食べちゃだめよ。
子供(兄弟): はい。
<しばらくして>
母: あ、ごめんね。宅急便屋さんだった。
兄: 悠はもうケーキを食べている。①
母: もう食べているの。② だめじゃないの。
弟: ごめん、でも、ちょっとしか食べていないよ。③

(3)は母と子の会話です。母親がまだ食べないように言ったのに、弟の悠君は母親が戻ってくる前に食べ始めたようです。それを兄が「悠はもう食べている」と報告しています。①と②の「食べている」は同じ用法で、「食べる」という動作が「実現」している(ここでは開始している)という意味を表します。一方、③の「食べていない」は「食べている」の否定形ですが、弟に言わせれば「(ちょっとしか)食べていない」、つまり、「食べる」ことがあまり「実現」していないという「未実現」を表します。「未実現」は「未完了」と同じだと考えてもいいでしょう。

したがって、(3)の①②「～ている」は実現、③の「～ていない」は未実現を表します。

では、次からは皆さん自身で考えてください。会話に出てくる「～ている」はどのような意味用法を表すでしょうか。



(4) <Aさんは外国の観光客、Bさんは商店街の人です。
朝、商店街で「ガラガラガラ・・・」という音がするのを聞いて>
A：何の音ですか。
B：今、店のシャッターがいっせいに開いているんです。①
A：ああ、本当ですね。全部自動ですか。
店は何時まで開いているんですか。②
B：だいたい午後9時まで開いていますよ。②
でも、うちは10時まで開けていますよ。③
④ ① ② ③



(5) A：最近こわい事件が多いですね。
B：ええ、きのうもありましたね。
A：どうしてあんなことが起こったんでしょうね。
A：本当ですね。
B：最近、月に1回はこわい事件が起こっていますね。
⑤

(4) ①は店のシャッターが今ガラガラと開いている途中ですから、「動作の進行」を表します。②(2つあります)は朝何時かに店が開いて、その結果の状態が続いていることを表します。③は「開けて+いる」なので、動作主が今店を開けつつあるという「動作の進行」を表していると考えがちですが、これは朝何時かに店の人が店を開けて、その結果の状態が続いていることを表します。②の「開いている」と③の「開けている」は、ここでは両方とも「状態」を表しますが、「開けている」は人の動作・行為、または、動作主の意志に視点(注意点)が置かれ、誰かが開けて、その状態を続けているという意味になります。
(5)の「～ている」は、物事(5)では事件)が繰り返したり、物事を繰り返したりする「反復」を表します。次のように「たびたび」「しょっちゅう」や、「いつも」「よく」などの頻度を表す副詞とともに用いられることが多いです。

- i. この地域はたびたび津波に襲われている。
- ii. このあたりでは、いつも道路工事が行われている。

(6) A：アフリカに行ったことある？
B：ううん、ない。Aさんは？
A：ぼくも行ったことないよ。
でも、Cさんは行ったことがあるんだって。
B：へえー。
A：彼は冒険家だから、アフリカには3回も行っているそうだよ。
⑥

(6)の「行っている」は「経歴や記録」を表します。過去に起こったことが現在と何らかの関わりがある場合、「経歴や記録」として述べられています。*3ここでは、アフリカへ行ったことが話題になっていて、AがCのアフリカ行きの経験について話しています。(6)の会話の1行目と4行目に出ている「行ったことがある」も経験を表しますが、「～ことがある」が経験を相手に積極的に伝えようとするのに対して、「～ている」は、むしろ過去の記録・経歴として示す時に使われます。

- i. 彼女はベストセラーの本はすべて読んでいます。
- ii. ゴーギャンはタヒチの女性だけでなく、静かな風景画もいくつか描いている。

では、次の(7)の「とがっている」はどんな意味を表すか考えてください。

(7) A：すみません。何か切るものありますか。
B：このはさみでいいですか。
A：あ、すみません。
B：先がとがっているから、気をつけてください。
⑦

この「とがっている」は一時的な状態ではなく、そのものが持つ恒常的な性質・特徴を表します。(7)では、はさみの先が細く、鋭くなっていることを表します。このような「～ている」には次のようなものがあります。

- i. このあたりは3000メートル以上の山々がそびえている。
- ii. 彼女は大きな目をしている。
- iii. この作品が一番すぐれている

今回出てきた「～ている」の使い方の中で知らないものがありましたか。以上説明した「～ている」の意味用法は次のようになります。

動作の進行・継続 結果の状態 実現・未実現 反復 経歴・記録 性質・特徴

注
*1 「文法をやさしく」(2003年9月更新)で基本的なことが詳しく説明されているので、該当項目を参考にしてください。
*2,3 砂川有里子(1986)『セルフ・マスターズシリーズ2 する・した・している』くろしお出版

このコーナーの担当者：市川保子(日本語国際センター客員講師)
このコーナーについてご感想やご質問があれば送ってください。